

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475300562		
法人名	株式会社 ウエル		
事業所名	なんてん伊在荘	ユニット名	やまかぜ
所在地	宮城県仙台市若林区蒲町5-1		
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 13 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

移転してきて2年目を迎えております。コロナ禍で、ご家族様も中には入れていない状況ですが、事業所内での楽しいで頂けるような行事等を考え実施しております。その様子をブログを活用したり毎月のご家族のお手紙に載せることで現状のお知らせをしております。また、会社のホームページにブログを載せているためそちらの方をご覧になって申し込みに来ていただけたらと思います。今後も、楽しんで頂けている様子を伊在荘側からも発信しながら安心安全に楽しく過ごしていただける様にしたいと思っております。コロナが落ち着き面会が出来るようになったら、ご家族様や地域の方々を呼び以前の様にお祭りやBBQなどを行える機会を作りたいと思っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5 年 3 月 7 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは地下鉄東西線六丁の目駅から徒歩10分程の所である。近隣に商業施設や保育園、中学校があり利便性の良い場所である。木造2階で1階は「やま風」「せせらぎ」の2ユニット、2階は「あお空」ユニットと事務所がある。令和3年に伊在地区より隣りの蒲町地区に移転した。コロナ禍でもあり、近隣住民との交流が難しい時であるが、中学生の職場体験を受け入れる等の交流を図っている。職員全員が笑顔を大切に、日々寄り添うケアを実践し、安全で安心した生活を目指している。他のユニットへおしゃべりやお茶をしに行く方がいたり、明るいリビングで足浴をしたり歌をうたったり、個々に寛いで過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37) ○	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12) ○
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **なんてん伊在荘** )「ユニット名 **やまかぜ** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をもとに毎年、ユニットの理念を会議などの職員同士の話し合いを通して構築しユニットの見えるところに掲示し共有している。	法人理念を基に、ユニット毎の理念がある。年度末の10月にユニット毎に見直し、継続または改めて作成し、リビングや玄関ホールに掲示している。朝礼で唱和し、入居者の思いに寄り添ったケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍で地域の行事が中止となっており実際には参加できていないが、町内会長さんへご協力の声かけをさせて頂いている。	町内会に加入し、市政だより等を受け取っている。中学生9名の職場体験を受け入れ、入居者と一緒に洗濯物たたみや歌をうたって交流をした。地域包括職員から近所の公園でやっている「いきいき体操」の誘いがあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の職場体験や高校生の職場実習を受け入れたり、ボランティア等を通して認知症を理解して頂けるよう努めている。中学生の職場体験を3日間だけ受け入れができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	伊在サロンという形で運営推進会議を行っていたが現在はコロナ禍で実際に集まる事が出来ていないが議事録などを送り地域の方やご家族の方と情報交換を行っている。意見などを運営に活かさせて頂いている。	奇数月に職員間で開催し、入居者の現状や取り組み等を話し合っている。議事録や行事写真を町内会長や地域包括支援センター長、家族に送付し書面会議としている。コロナ禍での労いの言葉が返信として多くある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂いたり、地域のケア会議等に参加し、情報交換を行っている。現在は中止となっている。	介護保険の更新や区分変更等で、区役所に出向している。保健所とはコロナ感染状況の相談や入居者の相談に乗って貰い、他事業所へ紹介をして貰った。県から抗原検査キットの提供があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所のマニュアルや書物・ネットなどの情報をもとに勉強会の機会を設けている。また、拘束になりうる事態を日ごろの業務の中でスタッフ間で話し合っている。	「身体的拘束等適正化対策検討委員会」を3ヵ月毎に開催している。入院治療中に出来た褥瘡と、ホームで出来た褥瘡の違いについて話し合いを行った。テーブルと椅子の間隔を狭くすることが拘束に当たるのか検討した。身体拘束の無いケアに努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所のマニュアルや書物・ネットなどの情報をもとに勉強会の機会を設けている。また現場でも注意をお互いに呼びかけている。	「身体的拘束等適正化対策検討委員会」の中で虐待防止の勉強をしている。「ちょっと待って」等の、強い口調の声掛け等は虐待に当たると認識し、気になった時は、職員間で注意し合える環境である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用している利用者様もいるため権利擁護に関する研修にはスタッフが平等に参加できる様に配慮し事業所全体で情報を共有している。現在研修が延期になったり、中止になったりしており研修には参加出来ていないが以前の資料を参考にし情報共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、ご家族様と話し合いをしたり契約時は時間を設け重要事項説明書をもとに説明を行い理解頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のご意見をもとにご家族や地域から意見をいただいたり、電話やご家族が面会にいらした時にも意見を頂き、みんなで話し合い早期解決に努めている。	不足した生活用品等を電話で連絡した時や面会時に聞いている。家族から一周忌に連れていきたいとの要望には、感染予防を徹底する事を条件にして応じた。入居者の好きな果物等を食べさせてと差し入れがある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回リーダー会議や全体会議を行い、スタッフからの意見を取り上げている。普段からのスタッフ間のコミュニケーションも充実させ意見を出しやすい環境作りを行っている。	食欲が減少してきた方の食事について提案があった。食べたい物を聞き「おにぎり」を食べた事がきっかけとなり食欲が戻った。勤務3年経過職員に介護福祉士受講を進め、受講費を法人が支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価システムを活用している。個人面談を行い目標設定し定期的に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の資格制度をすすんで活用してもらえるように声がけし、社内や外部の研修には平等に参加できるようにシフト調整を行っている。新人教育には、新人教育のマニュアルを活用し統一した育成が出来るようにしている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に参加し情報交換をしたり、同業者が行う研修会に参加している。また、社内でも他事業所合同での研修会や交流会を行っている。現在は、コロナ禍で中止となっている事が多い。	法人内の研修会や交流会に参加したり、コロナ感染予防用品の不足分を協力し合っている。管理者は、他事業所と入居情報等の連絡を取り交流をしている。調剤薬局の薬剤師が来訪した際に、薬の相談をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人やご家族に直接話を聞いたりしながら入居後の関係づくりに役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や面会時にご本人やご家族に話を聞いたりしながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の実態調査の際にご家族から話を伺った情報をもとにケアプランを作成しご本人にあったケアプランを作成していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることをお願いし生きがいへと繋げている。ユニット内でもそれぞれ得意な役割として共に暮らしている実感を感じていただける様に対応している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご本人の関係を把握しながら、来所時には普段の様子を報告し、ケアプラン作成時にはご家族の意見も取り入れている。また、協力体制してもらえる事を確認しながら行っている。また、毎月本人の様子を手紙で郵送している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際、本人のなじみの物を用意して頂き安心できる環境を作っている。また、知人や友人との面会をしていただいている。	孫がひ孫を連れて面会に来訪している。遠方の兄弟から手紙が来たり、中学校の同級生が2ヵ月毎に電話をくれるので、取次ぎ等をして支援している。馴染みの理容師が定期的に来訪するのを楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格や相性を理解し席替えを行ったり、ユニット内にある小スペースを使ってコミュニケーションを取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	緊急搬送し入院された方で施設退所された方でもご家族から相談の電話が入ることもありご家族の不安等を聞いている。また、本人の状態を把握し状態により今後について話し合いをししたりするケースがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中から本人の思いを汲みとりケアプランに活かしている。本人が困難な場合はご家族に聞いている。	日常の何気ない会話から思いや意向を聞いている。「わからなくなって不安」と悩みを打ち明けて来た時は、寄り添い話を聞いている。家族に材料を持って来て貰い、趣味の折り紙のリース作りをしている方がいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を利用したり、本人との日ごろの会話から得た情報やご家族に聞いた情報などを活かし生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌や個人記録に一日の様子を記録して把握している。特に本人の様子変化については詳しく記録してミーティング等でも情報を共有している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティングでモニタリングを行っている。スタッフから意見をもらい、ご本人やご家族に聞いたりしながら意見をもらってケアプランに反映させている。	6ヵ月毎に介護計画書を見直し作成している。状態変化時は、その都度変更をしている。身体に水泡ができやすい方には、医師の指示で血行を良くしたり、保湿をする事をプランに入れ改善している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にはケアプランを意識した記録を記入し特に変化があるときには詳しく記入しスタッフ間で共有している。それを実践しながらミーティングにてカンファレンスをしケアの方向性を統一している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前は、傾聴ボランティアさんや保育園との交流を行っていたが現在はコロナ禍でボランティアの要請が出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍で行えていないが、包括支援センターで行う認知症カフェに参加させてもらったり、保育園の行事に招待された時に参加していた。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を希望しているか往診や通院時等にご家族やご本人の考えを聞き希望に添えるようにしている。	協力医が2カ所あり、入居時に選択して契約をしている。どちらも月2回の訪問診療である。訪問看護師が週1回入居者の健康管理をしている。医師の特別指示書で治療を要する方には、専門の訪問看護師が来訪する。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に、訪看を利用し日ごろの様子を伝え相談しアドバイスを頂いている。また、それを主治医に伝え情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを病院に提出し、面会ができない為電話連絡をし状態を聞いている。また、ご家族へも連絡しその後の動きについてスムーズに対応できるようにしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に同意書を説明しご家族の考えを聞き同意を得ている。また、往診の医師が判断した時はご家族に医師から説明して頂き確認している。ご家族も気持ちが変わる場合があるので確認している。	「重度化した場合における対応に係る指針」が明文化され、入居時に説明して同意を得ている。状態の変化に応じて、主治医と関係者で話し合い方向の統一化を図っている。年間計画に「看取りケア」の研修がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変したときの連絡順番はいつも確認している。急変時の対応マニュアルをミーティング時などに改めて見直している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、その際に地域の方々やご家族にも参加して頂き災害時のご協力を伝えている。現在はコロナ禍で地域の方々やご家族は参加できていない。	夜間想定を含む、火災や洪水災害訓練を年2回以上実施している。「外に避難した後の見守りが不十分だった」等の反省があった。備蓄品として、アルファ米や缶詰等が5日分、発電機や石油ストーブ等がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の排泄介助の際の声かけや対応に配慮しつつも尊敬の念を持ち対応している。	呼び方は「さん付け」だが、家族に確認し呼び慣れた「ちゃん付け」で呼ぶ時もある。失敗時は「ちょっと行きませんか」と、他の方に気付かれないような声のトーンで誘っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の選択しやすい言葉を選びジェスチャーを交え、話や答える様に行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の一日の流れを把握してそれぞれのペースに合わせたケアを行っている。また、会話の中から本人のやりたい事を探り出来るだけ希望に添えるように行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択できる方には自ら書いていただき難しい方には選びやすい方法で選んで頂いている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に出来る事、野菜の皮むきなどを行っている。昼はフリーメニューにし、利用者様から聞き出し食べたいものを提供している。	朝食と夕食は、配食業者を利用し栄養面の管理もされている。味噌汁とご飯は作っている。昼食は、入居者に食材を見せて考えて貰ったり、食べたい物のリクエストに応じている。敬老会で赤飯等の行事食がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	他業者からバランスの取れた食事を提供し、ミキサー食やおかゆ食やムース食など利用者一人一人に合わせた形状にし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。出来る方には声かけして自立支援を行っている。また、マウスウォッシュなどを使って口腔ケアを行っている。感染防止の為に、カテキン緑茶でうがいも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人一人の排泄パターンに合わせてトイレ誘導やオムツ交換を行っている。	排泄チェック表を基に、定時の声かけや表情、そわそわした様子を見て誘導している。便秘気味の方は、医師の指示で漢方薬を服用している。夜間帯は安全性を重視し足元センサーを家族の了承を得て使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼る前に、オリゴ糖や冷たい牛乳などで排便を促している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者様の希望や状態に合わせて時間を調整し利用者様の気持ちによって変更している。	週2～3回の入浴としている。好みのボディソープやシャンプー、入浴剤を使用している方がいる。入浴拒否の方には、時間をずらして誘っている。浴槽を跨ぐのが困難な方に介護用リフトを使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さまの要望や体調に合わせて休息して頂いたり夜間の安眠のため室温管理、見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人一人の服用しているお薬の成分や効能などをスタッフ一人一人把握し状況に応じて主治医や薬剤師に相談し、投薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さまの出来る事などを把握し洗濯・食器拭き・掃除など無理のない範囲でお願いすることで意欲に繋げている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人的な外出支援についてはご家族様と相談し外出していただき、全体では季節が感じられるように野外での企画を考え提供している。買い物や公園への散歩はコロナ禍で行えていない状況である。	敷地内に畑を作り、水やりや草取りをしながら、夏野菜を育てた。ホーム駐車場で夕涼み花火大会や芋煮会、バーベキュー大会をした。テーブルと椅子を持ち出しアフタヌーンティーを楽しむ等、天気が良い日には、外気に触れられるように支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に合わせて一緒に買い物に行っていたが現在はスタッフが依頼された物を購入して来ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と相談し一週間に一回連絡されてくる方もいらっしゃる。また、用事があったかかってきた際にはご本人様に電話をおつなぎしたりしている。年賀状やメッセージカードが届いたりしている方もいる。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りつけや、利用者様の作品を利用者がいつでも見れるようにユニット内に展示し誰もが楽しめるように空間を作っている。	空気清浄機を使用し、窓を少し開放しながら空気の流れに気を付けている。手摺りや床は昼夜2回、アルコール消毒をして感染症予防対策をしている。折り紙で作ったお雛様や七夕飾りを季節毎に飾っている。午前は足浴をしたり、午後は体操を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下などのところどころに椅子や、リクライニングチェアを置いてくつろげる空間づくりをし利用していただいている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や写真などを、入居前にお話をし入居時に持ってきてもらい飾ったりし居心地のよい場所を作っている。	電動ベッドや洗面台、チェスト、カーテンが備え付けてある。入居時に椅子やテーブル、テレビ、仏壇、布団等を持ち込んでいる。家族と携帯電話で話したり、思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は歩行の妨げにならないように配置し、トイレの表示を分かりやすくしている。居室の表札は本人が気に入るような工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475300562		
法人名	株式会社 ウエル		
事業所名	なんてん伊在荘	ユニット名	せせらぎ
所在地	宮城県仙台市若林区蒲町5-1		
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 13 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5 年 3 月 7 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

移転してきて2年目を迎えております。コロナ禍で、ご家族様も中には入れていない状況ですが、事業所内での楽しいで頂けるような行事等を考え実施しております。その様子をブログを活用したり毎月のご家族のお手紙に載せることで現状のお知らせをしております。また、会社のホームページにブログを載せているためそちらの方をご覧になって申し込みに来ていただけたらしております。今後も、楽しんで頂いている様子を伊在荘側からも発信しながら安心安全に楽しく過ごしていただける様にしたいと思います。コロナが落ち着き面会が出来るようになったら、ご家族様や地域の方々を呼び以前の様にお祭りやBBQなどを行える機会を作りたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは地下鉄東西線六丁の目駅から徒歩10分程の所である。近隣に商業施設や保育園、中学校があり利便性の良い場所である。木造2階で1階は「やま風」「せせらぎ」の2ユニット、2階は「あお空」ユニットと事務所がある。令和3年に伊在地区より隣りの蒲町地区に移転した。コロナ禍でもあり、近隣住民との交流が難しい時であるが、中学生の職場体験を受け入れる等の交流を図っている。職員全員が笑顔を大切に、日々寄り添うケアを実践し、安全で安心した生活を目指している。他のユニットへおしゃべりやお茶をしに行く方がいたり、明るいリビングで足浴をしたり歌をうたったり、個々に寛いで過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **なんてん伊在荘** )「ユニット名 **せせらぎ** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をもとに毎年、ユニットの理念を会議などの職員同士の話し合いを通して構築しユニットの見えるところに掲示し共有している。	法人理念を基に、ユニット毎の理念がある。年度末の10月にユニット毎に見直し、継続または改めて作成し、リビングや玄関ホールに掲示している。朝礼で唱和し、入居者の思いに寄り添ったケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍で地域の行事が中止となっており実際には参加できていないが、町内会長さんへご協力の声かけをさせて頂いている。	町内会に加入し、市政だより等を受け取っている。中学生9名の職場体験を受け入れ、入居者と一緒に洗濯物たたみや歌をうたって交流をした。地域包括職員から近所の公園でやっている「いきいき体操」の誘いがあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の職場体験や高校生の職場実習を受け入れたり、ボランティア等を通して認知症を理解して頂けるよう努めている。中学生の職場体験を3日間だけ受け入れができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	伊在サロンという形で運営推進会議を行っていたが現在はコロナ禍で実際に集まる事が出来ていないが議事録などを送り地域の方やご家族の方と情報交換を行っている。意見などを運営に活かさせて頂いている。	奇数月に職員間で開催し、入居者の現状や取り組み等を話し合っている。議事録や行事写真を町内会長や地域包括支援センター長、家族に送付し書面会議としている。コロナ禍での労いの言葉が返信として多くある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂いたり、地域のケア会議等に参加し、情報交換を行っている。現在は中止となっている。	介護保険の更新や区分変更等で、区役所に出向いている。保健所とはコロナ感染状況の相談や入居者の相談に乗って貰い、他事業所へ紹介をして貰った。県から抗原検査キットの提供があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所のマニュアルや書物・ネットなどの情報をもとに勉強会の機会を設けている。また、拘束になりうる事態を日ごろの業務の中でスタッフ間で話し合っている。	「身体的拘束等適正化対策検討委員会」を3ヵ月毎に開催している。入院治療中に出来た褥瘡と、ホームで出来た褥瘡の違いについて話し合いを行った。テーブルと椅子の間隔を狭くすることが拘束に当たるのか検討した。身体拘束の無いケアに努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所のマニュアルや書物・ネットなどの情報をもとに勉強会の機会を設けている。また現場でも注意をお互いに呼びかけている。	「身体的拘束等適正化対策検討委員会」の中で虐待防止の勉強をしている。「ちょっと待って」等の、強い口調の声掛け等は虐待に当たると認識し、気になった時は、職員間で注意し合える環境である。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用している利用者様もいるため権利擁護に関する研修にはスタッフが平等に参加できる様に配慮し事業所全体で情報を共有している。現在研修が延期になったり、中止になったりしており研修には参加出来ていないが以前の資料を参考にし情報共有している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、ご家族様と話し合いをしたり契約時は時間を設け重要事項説明書をもとに説明を行い理解頂いている。			
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のご意見をもとにご家族や地域から意見をいただいたり、電話やご家族が面会にいらした時にも意見を頂き、みんなで話し合い早期解決に努めている。	不足した生活用品等を電話で連絡した時や面会時に聞いている。家族から一周忌に連れていきたいとの要望には、感染予防を徹底する事を条件にして応じた。入居者の好きな果物等を食べさせてと差し入れがある。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回リーダー会議や全体会議を行い、スタッフからの意見を取り上げている。普段からのスタッフ間のコミュニケーションも充実させ意見を出しやすい環境作りを行っている。	食欲が減少してきた方の食事について提案があった。食べたい物を聞き「おにぎり」を食べた事がきっかけとなり食欲が戻った。勤務3年経過職員に介護福祉士受講を進め、受講費を法人が支援している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価システムを活用している。個人面談を行い目標設定し定期的に取り組んでいる。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の資格制度をすすんで活用してもらえるように声がけし、社内や外部の研修には平等に参加できるようにシフト調整を行っている。新人教育には、新人教育のマニュアルを活用し統一した育成が出来るようにしている。			
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に参加し情報交換をしたり、同業者が行う研修会に参加している。また、社内でも他事業所合同での研修会や交流会を行っている。現在は、コロナ禍で中止となっている事が多い。	法人内の研修会や交流会に参加したり、コロナ感染予防用品の不足分を協力し合っている。管理者は、他事業所と入居情報等の連絡を取り交流をしている。調剤薬局の薬剤師が来訪した際に、薬の相談をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人やご家族に直接話を聞いたりしながら入居後の関係づくりに役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や面会時にご本人やご家族に話を聞いたりしながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の実態調査の際にご家族から話を伺った情報をもとにケアプランを作成しご本人にあったケアプランを作成していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることをお願いし生きがいへと繋げている。ユニット内でもそれぞれ得意な役割として共に暮らしている実感を感じていただける様に対応している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご本人の関係を把握しながら、来所時には普段の様子を報告し、ケアプラン作成時にはご家族の意見も取り入れている。また、協力体制してもらえ事を確認しながら行っている。また、毎月本人の様子を手紙で郵送している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際、本人のなじみの物を用意して頂き安心できる環境を作っている。また、知人や友人との面会をしていただいている。	孫がひ孫を連れて面会に来訪している。遠方の兄弟から手紙が来たり、中学校の同級生が2か月毎に電話をくれるので、取次ぎ等をして支援している。馴染みの理容師が定期的に来訪するのを楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格や相性を理解し席替えを行ったり、ユニット内にある小スペースを使ってコミュニケーションを取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	緊急搬送し入院された方で施設退所された方でもご家族から相談の電話が入ることもありご家族の不安等を聞いている。また、本人の状態を把握し状態により今後について話し合いをししたりするケースがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中から本人の思いを汲みとりケアプランに活かしている。本人が困難な場合はご家族に聞いている。	日常の何気ない会話から思いや意向を聞いている。「わからなくなって不安」と悩みを打ち明けて来た時は、寄り添い話を聞いている。家族に材料を持って来て貰い、趣味の折り紙のリース作りをしている方がいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を利用したり、本人との日ごろの会話から得た情報やご家族に聞いた情報などを活かし生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌や個人記録に一日の様子を記録して把握している。特に本人の様子変化については詳しく記録してミーティング等でも情報を共有している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティングでモニタリングを行っている。スタッフから意見をもらい、ご本人やご家族に聞いたりしながら意見をもらってケアプランに反映させている。	6ヵ月毎に介護計画書を見直し作成している。状態変化時は、その都度変更をしている。身体に水泡ができやすい方には、医師の指示で血行を良くしたり、保湿をする事をプランに入れ改善している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にはケアプランを意識した記録を記入し特に変化があるときには詳しく記入しスタッフ間で共有している。それを実践しながらミーティングにてカンファレンスをしケアの方向性を統一している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前は、傾聴ボランティアさんや保育園との交流を行っていたが現在はコロナ禍でボランティアの要請が出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍で行えていないが、包括支援センターで行う認知症カフェに参加させてもらったり、保育園の行事に招待された時に参加していた。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を希望しているか往診や通院時等にご家族やご本人の考えを聞き希望に添えるようにしている。	協力医が2カ所あり、入居時に選択して契約をしている。どちらも月2回の訪問診療である。訪問看護師が週1回入居者の健康管理をしている。医師の特別指示書で治療を要する方には、専門の訪問看護師が来訪する。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に、訪看を利用し日ごろの様子を伝え相談しアドバイスを頂いている。また、それを主治医に伝え情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを病院に提出し、面会ができない為電話連絡をし状態を聞いている。また、ご家族へも連絡しその後の動きについてスムーズに対応できるようにしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に同意書を説明しご家族の考えを聞き同意を得ている。また、往診の医師が判断した時はご家族に医師から説明して頂き確認している。ご家族も気持ちが変わる場合があるので確認している。	「重度化した場合における対応に係る指針」が明文化され、入居時に説明して同意を得ている。状態の変化に応じて、主治医と関係者で話し合い方向の統一化を図っている。年間計画に「看取りケア」の研修がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変したときの連絡順番はいつも確認している。急変時の対応マニュアルをミーティング時などに改めて見直している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、その際に地域の方々やご家族にも参加して頂き災害時のご協力を伝えている。現在はコロナ禍で地域の方々やご家族は参加できていない。	夜間想定を含む、火災や洪水災害訓練を年2回以上実施している。「外に避難した後の見守りが不十分だった」等の反省があった。備蓄品として、アルファ米や缶詰等が5日分、発電機や石油ストーブ等がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の排泄介助の際の声かけや対応に配慮しつつも尊敬の念を持ち対応している。	呼び方は「さん付け」だが、家族に確認し呼び慣れた「ちゃん付け」で呼ぶ時もある。失敗時は「ちょっと行きませんか」と、他の方に気付かれないような声のトーンで誘っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の選択しやすい言葉を選びジェスチャーを交え、話や答える様に行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の一日の流れを把握してそれぞれのペースに合わせたケアを行っている。また、会話の中から本人のやりたい事を探り出来るだけ希望に添えるように行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択できる方には自ら書いていただき難しい方には選びやすい方法で選んで頂いている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に出来る事、野菜の皮むきなどを行っている。昼はフリーメニューにし、利用者様から聞き出し食べたいものを提供している。	朝食と夕食は、配食業者を利用し栄養面の管理もされている。味噌汁とご飯は作っている。昼食は、入居者に食材を見せて考えて貰ったり、食べたい物のリクエストに応じている。敬老会で赤飯等の行事食がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	他業者からバランスの取れた食事を提供し、ミキサー食やおかゆ食やムース食など利用者一人一人に合わせた形状にし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。出来る方には声かけして自立支援を行っている。また、マウスウォッシュなどを使って口腔ケアを行っている。感染防止の為に、カテキン緑茶でうがいも行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人一人の排泄パターンに合わせてトイレ誘導やオムツ交換を行っている。	排泄チェック表を基に、定時の声かけや表情、そわそわした様子を見て誘導している。便秘気味の方は、医師の指示で漢方薬を服用している。夜間帯は安全性を重視し足元センサーを家族の了承を得て使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼る前に、オリゴ糖や冷たい牛乳などで排便を促している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者様の希望や状態に合わせて時間を調整し利用者様の気持ちによって変更している。	週2～3回の入浴としている。好みのボディソープやシャンプー、入浴剤を使用している方がいる。入浴拒否の方には、時間をずらして誘っている。浴槽を跨ぐのが困難な方に介護用リフトを使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さまの要望や体調に合わせて休息して頂いたり夜間の安眠のため室温管理、見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人一人の服用しているお薬の成分や効能などをスタッフ一人一人把握し状況に応じて主治医や薬剤師に相談し、投薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さまの出来る事などを把握し洗濯・食器拭き・掃除など無理のない範囲でお願いすることで意欲に繋げている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人的な外出支援についてはご家族様と相談し外出していただき、全体では季節が感じられるように野外での企画を考え提供している。買い物や公園への散歩はコロナ禍で行えていない状況である。	敷地内に畑を作り、水やりや草取りをしながら、夏野菜を育てた。ホーム駐車場で夕涼み花火大会や芋煮会、バーベキュー大会をした。テーブルと椅子を持ち出しアフタヌーンティーを楽しむ等、天気が良い日には、外気に触れられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に合わせて一緒に買い物に行っていたが現在はスタッフが依頼された物を購入して来ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と相談し一週間に一回連絡されてくる方もいらっしゃる。また、用事があったかかってきた際にはご本人様に電話をおつなぎしたりしている。年賀状やメッセージカードが届いたりしている方もいる。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りつけや、利用者様の作品を利用者がいつでも見れるようにユニット内に展示し誰もが楽しめるように空間を作っている。	空気清浄機を使用し、窓を少し開放しながら空気の流れに気を付けている。手摺りや床は昼夜2回、アルコール消毒をして感染症予防対策をしている。折り紙で作ったお雛様や七夕飾りを季節毎に飾っている。午前は足浴をしたり、午後は体操を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下などのところどころに椅子や、リクライニングチェアを置いてくつろげる空間づくりをし利用していただいている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や写真などを、入居前にお話をし入居時に持ってきてもらい飾ったりし居心地のよい場所を作っている。	電動ベッドや洗面台、チェスト、カーテンが備え付けてある。入居時に椅子やテーブル、テレビ、仏壇、布団等を持ち込んでいる。家族と携帯電話で話したり、思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は歩行の妨げにならないように配置し、トイレの表示を分かりやすくしている。居室の表札は本人が気に入るような工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475300562		
法人名	株式会社 ウエル		
事業所名	なんてん伊在荘	ユニット名	あおぞら
所在地	宮城県仙台市若林区蒲町5-1		
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 13 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5 年 3 月 7 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

移転してきて2年目を迎えております。コロナ禍で、ご家族様も中には入れていない状況ですが、事業所内での楽しいで頂けるような行事等を考え実施しております。その様子をブログを活用したり毎月のご家族のお手紙に載せることで現状のお知らせをしております。また、会社のホームページにブログを載せているためそちらの方をご覧になって申し込みに来ていただけたらしております。今後も、楽しんで頂いている様子を伊在荘側からも発信しながら安心安全に楽しく過ごしていただける様にしたいと思います。コロナが落ち着き面会が出来るようになったら、ご家族様や地域の方々を呼び以前の様にお祭りやBBQなどを行える機会を作りたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは地下鉄東西線六丁の目駅から徒歩10分程の所である。近隣に商業施設や保育園、中学校があり利便性の良い場所である。木造2階で1階は「やま風」「せせらぎ」の2ユニット、2階は「あお空」ユニットと事務所がある。令和3年に伊在地区より隣りの蒲町地区に移転した。コロナ禍でもあり、近隣住民との交流が難しい時であるが、中学生の職場体験を受け入れる等の交流を図っている。職員全員が笑顔を大切に、日々寄り添うケアを実践し、安全で安心した生活を目指している。他のユニットへおしゃべりやお茶をしに行く方がいたり、明るいリビングで足浴をしたり歌をうたったり、個々に寛いで過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **なんてん伊在荘** )「ユニット名 **あおぞら** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をもとに毎年、ユニットの理念を会議などの職員同士の話し合いを通して構築しユニットの見えるところに掲示し共有している。	法人理念を基に、ユニット毎の理念がある。年度末の10月にユニット毎に見直し、継続または改めて作成し、リビングや玄関ホールに掲示している。朝礼で唱和し、入居者の思いに寄り添ったケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍で地域の行事が中止となっており実際には参加できていないが、町内会長さんへご協力の声かけをさせて頂いている。	町内会に加入し、市政だより等を受け取っている。中学生9名の職場体験を受け入れ、入居者と一緒に洗濯物たたみや歌をうたって交流をした。地域包括職員から近所の公園でやっている「いきいき体操」の誘いがあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の職場体験や高校生の職場実習を受け入れたり、ボランティア等を通して認知症を理解して頂けるよう努めている。中学生の職場体験を3日間だけ受け入れができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	伊在サロンという形で運営推進会議を行っていたが現在はコロナ禍で実際に集まる事が出来ていないが議事録などを送り地域の方やご家族の方と情報交換を行っている。意見などを運営に活かさせて頂いている。	奇数月に職員間で開催し、入居者の現状や取り組み等を話し合っている。議事録や行事写真を町内会長や地域包括支援センター長、家族に送付し書面会議としている。コロナ禍での労いの言葉が返信として多くある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂いたり、地域のケア会議等に参加し、情報交換を行っている。現在は中止となっている。	介護保険の更新や区分変更等で、区役所に出向している。保健所とはコロナ感染状況の相談や入居者の相談に乗って貰い、他事業所へ紹介をして貰った。県から抗原検査キットの提供があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所のマニュアルや書物・ネットなどの情報をもとに勉強会の機会を設けている。また、拘束になりうる事態を日ごろの業務の中でスタッフ間で話し合っている。	「身体的拘束等適正化対策検討委員会」を3ヵ月毎に開催している。入院治療中に出来た褥瘡と、ホームで出来た褥瘡の違いについて話し合いを行った。テーブルと椅子の間隔を狭くすることが拘束に当たるのか検討した。身体拘束の無いケアに努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所のマニュアルや書物・ネットなどの情報をもとに勉強会の機会を設けている。また現場でも注意をお互いに呼びかけている。	「身体的拘束等適正化対策検討委員会」の中で虐待防止の勉強をしている。「ちょっと待って」等の、強い口調の声掛け等は虐待に当たると認識し、気になった時は、職員間で注意し合える環境である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用している利用者様もいるため権利擁護に関する研修にはスタッフが平等に参加できる様に配慮し事業所全体で情報を共有している。現在研修が延期になったり、中止になったりしており研修には参加出来ていないが以前の資料を参考にし情報共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、ご家族様と話し合いをしたり契約時は時間を設け重要事項説明書をもとに説明を行い理解頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のご意見をもとにご家族や地域から意見をいただいたり、電話やご家族が面会にいらした時にも意見を頂き、みんなで話し合い早期解決に努めている。	不足した生活用品等を電話で連絡した時や面会時に聞いている。家族から一周忌に連れていきたいとの要望には、感染予防を徹底する事を条件にして応じた。入居者の好きな果物等を食べさせてと差し入れがある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回リーダー会議や全体会議を行い、スタッフからの意見を取り上げている。普段からのスタッフ間のコミュニケーションも充実させ意見を出しやすい環境作りを行っている。	食欲が減少してきた方の食事について提案があった。食べたい物を聞き「おにぎり」を食べた事がきっかけとなり食欲が戻った。勤務3年経過職員に介護福祉士受講を進め、受講費を法人が支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価システムを活用している。個人面談を行い目標設定し定期的に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の資格制度をすすんで活用してもらえるように声がけし、社内や外部の研修には平等に参加できるようにシフト調整を行っている。新人教育には、新人教育のマニュアルを活用し統一した育成が出来るようにしている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に参加し情報交換をしたり、同業者が行う研修会に参加している。また、社内でも他事業所合同での研修会や交流会を行っている。現在は、コロナ禍で中止となっている事が多い。	法人内の研修会や交流会に参加したり、コロナ感染予防用品の不足分を協力し合っている。管理者は、他事業所と入居情報等の連絡を取り交流をしている。調剤薬局の薬剤師が来訪した際に、薬の相談をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人やご家族に直接話を聞いた りしながら入居後の関係づくりに役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や面会時にご本人やご家族に話を 聞いたりしながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の実態調査の際にご家族から話を 伺った情報をもとにケアプランを作成しご本人 にあったケアプランを作成していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることをお願いし生きがいへと 繋げている。ユニット内でもそれぞれ得意な 役割として共に暮らしている実感を感じてい ただける様に対応している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご本人の関係を把握しながら、来 所時には普段の様子を報告し、ケアプラン 作成時にはご家族の意見も取り入れている。 また、協力体制してもらえ確認し ながら行っている。また、毎月本人の様子を 手紙で郵送している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際、本人のなじみの物を用意して頂 き安心できる環境を作っている。また、知人 や友人との面会をしていただいている。	孫がひ孫を連れて面会に来訪している。遠方 の兄弟から手紙が来たり、中学校の同級生 が2か月毎に電話をくれるので、取次ぎ等をして 支援している。馴染みの理容師が定期的 に来訪するのを楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格や相性を理解し席替えを 行ったり、ユニット内にある小スペースを 使ってコミュニケーションを取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	緊急搬送し入院された方で施設退所された方でもご家族から相談の電話が入ることもありご家族の不安等を聞いている。また、本人の状態を把握し状態により今後について話し合いをしたりするケースがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中から本人の思いを汲みとりケアプランに活かしている。本人が困難な場合はご家族に聞いている。	日常の何気ない会話から思いや意向を聞いている。「わからなくなって不安」と悩みを打ち明けて来た時は、寄り添い話を聞いている。家族に材料を持って来て貰い、趣味の折り紙のリース作りをしている方がいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を利用したり、本人との日ごろの会話から得た情報やご家族に聞いた情報などを活かし生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌や個人記録に一日の様子を記録して把握している。特に本人の様子変化については詳しく記録してミーティング等でも情報を共有している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティングでモニタリングを行っている。スタッフから意見をもらい、ご本人やご家族に聞いたりしながら意見をもらってケアプランに反映させている。	6ヵ月毎に介護計画書を見直し作成している。状態変化時は、その都度変更をしている。身体に水泡ができやすい方には、医師の指示で血行を良くしたり、保湿をする事をプランに入れ改善している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にはケアプランを意識した記録を記入し特に変化があるときには詳しく記入しスタッフ間で共有している。それを実践しながらミーティングにてカンファレンスをしケアの方向性を統一している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前は、傾聴ボランティアさんや保育園との交流を行っていたが現在はコロナ禍でボランティアの要請が出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍で行えていないが、包括支援センターで行う認知症カフェに参加させてもらったり、保育園の行事に招待された時に参加していた。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を希望しているか往診や通院時等にご家族やご本人の考えを聞き希望に添えるようにしている。	協力医が2カ所あり、入居時に選択して契約をしている。どちらも月2回の訪問診療である。訪問看護師が週1回入居者の健康管理をしている。医師の特別指示書で治療を要する方には、専門の訪問看護師が来訪する。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に、訪看を利用し日ごろの様子を伝え相談しアドバイスを頂いている。また、それを主治医に伝え情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを病院に提出し、面会ができない為電話連絡をし状態を聞いている。また、ご家族へも連絡しその後の動きについてスムーズに対応できるようにしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に同意書を説明しご家族の考えを聞き同意を得ている。また、往診の医師が判断した時はご家族に医師から説明して頂き確認している。ご家族も気持ちが変わる場合があるので確認している。	「重度化した場合における対応に係る指針」が明文化され、入居時に説明して同意を得ている。状態の変化に応じて、主治医と関係者で話し合い方向の統一化を図っている。年間計画に「看取りケア」の研修がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変したときの連絡順番はいつも確認している。急変時の対応マニュアルをミーティング時などに改めて見直している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、その際に地域の方々やご家族にも参加して頂き災害時のご協力を伝えている。現在はコロナ禍で地域の方々やご家族は参加できていない。	夜間想定を含む、火災や洪水災害訓練を年2回以上実施している。「外に避難した後の見守りが不十分だった」等の反省があった。備蓄品として、アルファ米や缶詰等が5日分、発電機や石油ストーブ等がある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の排泄介助の際の声かけや対応に配慮しつつも尊敬の念を持ち対応している。	呼び方は「さん付け」だが、家族に確認し呼び慣れた「ちゃん付け」で呼ぶ時もある。失敗時は「ちょっと行きませんか」と、他の方に気付かれないような声のトーンで誘っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の選択しやすい言葉を選びジェスチャーを交え、話や答える様に行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の一日の流れを把握してそれぞれのペースに合わせたケアを行っている。また、会話の中から本人のやりたい事を探り出来るだけ希望に添えるように行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択できる方には自ら書いていただき難しい方には選びやすい方法で選んで頂いている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に出来る事、野菜の皮むきなどを行っている。昼はフリーメニューにし、利用者様から聞き出し食べたいものを提供している。	朝食と夕食は、配食業者を利用し栄養面の管理もされている。味噌汁とご飯は作っている。昼食は、入居者に食材を見せて考えて貰ったり、食べたい物のリクエストに応じている。敬老会で赤飯等の行事食がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	他業者からバランスの取れた食事を提供し、ミキサー食やおかゆ食やムース食など利用者一人一人に合わせた形状にし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。出来る方には声かけして自立支援を行っている。また、マウスウォッシュなどを使って口腔ケアを行っている。感染防止の為に、カテキン緑茶でうがいも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人一人の排泄パターンに合わせてトイレ誘導やオムツ交換を行っている。	排泄チェック表を基に、定時の声かけや表情、そわそわした様子を見て誘導している。便秘気味の方は、医師の指示で漢方薬を服用している。夜間帯は安全性を重視し足元センサーを家族の了承を得て使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼る前に、オリゴ糖や冷たい牛乳などで排便を促している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者様の希望や状態に合わせて時間を調整し利用者様の気持ちによって変更している。	週2～3回の入浴としている。好みのボディークリームやシャンプー、入浴剤を使用している方がいる。入浴拒否の方には、時間をずらして誘っている。浴槽を跨ぐのが困難な方に介護用リフトを使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さまの要望や体調に合わせて休息して頂いたり夜間の安眠のため室温管理、見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人一人の服用しているお薬の成分や効能などをスタッフ一人一人把握し状況に応じて主治医や薬剤師に相談し、投薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さまの出来る事などを把握し洗濯・食器拭き・掃除など無理のない範囲でお願いすることで意欲に繋げている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人的な外出支援についてはご家族様と相談し外出していただき、全体では季節が感じられるように野外での企画を考え提供している。買い物や公園への散歩はコロナ禍で行えていない状況である。	敷地内に畑を作り、水やりや草取りをしながら、夏野菜を育てた。ホーム駐車場で夕涼み花火大会や芋煮会、バーベキュー大会をした。テーブルと椅子を持ち出しアフタヌーンティーを楽しむ等、天気が良い日には、外気に触れられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に合わせて一緒に買い物に行っていたが現在はスタッフが依頼された物を購入して来ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と相談し一週間に一回連絡されてくる方もいらっしゃる。また、用事があったかかってきた際にはご本人様に電話をおつなぎしたりしている。年賀状やメッセージカードが届いたりしている方もいる。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りつけや、利用者様の作品を利用者がいつでも見れるようにユニット内に展示し誰もが楽しめるように空間を作っている。	空気清浄機を使用し、窓を少し開放しながら空気の流れに気を付けている。手摺りや床は昼夜2回、アルコール消毒をして感染症予防対策をしている。折り紙で作ったお雛様や七夕飾りを季節毎に飾っている。午前は足浴をしたり、午後は体操を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下などのところどころに椅子や、リクライニングチェアを置いてくつろげる空間づくりをし利用していただいている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や写真などを、入居前にお話をし入居時に持ってきてもらい飾ったりし居心地のよい場所を作っている。	電動ベッドや洗面台、チェスト、カーテンが備え付けてある。入居時に椅子やテーブル、テレビ、仏壇、布団等を持ち込んでいる。家族と携帯電話で話したり、思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は歩行の妨げにならないように配置し、トイレの表示を分かりやすくしている。居室の表札は本人が気に入るような工夫をしている。		